

【徒然草】

【】(公世の二位の兄)

これは、「徒然草」の中の良覚僧正という位の高い僧の話です。文章を読んで、後の問いに答えよ。

公世の二位の兄、良覚僧正と聞えしは、きはめて 腹の悪しき人なりけり。

坊のかたはらに大きな榎の木がありければ、人、榎の木を僧正とぞ言ひける。このなしかるべからずとて、かの木を伐られにけり。その株のありければ、切杭の僧正と呼びけり。いよいよ腹を立ちて、切杭を掘り捨てたりける跡、大きな堀にてありければ、堀池の僧正とぞ言ひける。

(徒然草)

問一 「腹の悪しき人」とはどのような人か。最も適当なものを次の中から選べ。

ア 怒りっぱい人                   イ 意地の悪い人

ウ 悪だくみをする人               エ 落ち着きのない人

問二 文章中に、良覚僧正の心の中のつぶやきとして一箇所「」をつけるとしたらどこが最も適当か。その部分を十字以内で抜き出せ。

問三 この話のおもしろさはどこにあるのか。最も適当なものを次の中から選べ。

ア 良覚僧正が、切り株を掘って大きな堀をつくったこと。

イ 良覚僧正が、次々につけられるあだ名にむきになったこと。

ウ 良覚僧正が、次から次へと新しいあだ名をほしがったこと。

エ 良覚僧正が、人々のしつこさに負けて降参してしまったこと。

(北海道)

「解答」

問一 ア

問二 この名じがるんからず

問三 イ